

# 毎月 新聞 ごはん

第 98 号

2012年7月

発行所

リトル・スター・レストラン



「毎月新聞ごはん」は、  
リトル・スター・レストランが  
発行している新聞です。



リトスタ ぼきん

Little Star Restaurant

リトル・スター・レストラン / Mitaka, Tokyo

tel: 0422-45-3331

www.little-star.ws

## 小星★人語

お店のスタッフから、夏のセール  
の時期に衝動買いや無駄遣いを  
してしまっ...というらしいです  
か? という質問。それを来年も  
使うか? 三年後も使うか? 十  
年後も使うか? と考えて、それ  
でも欲しければ買ってもよいと答えました

▼そうは答えたものの、ワタクシの場合、洋服ならその方法で衝動買いを抑えられるのですが、いくつかのものについては、たくさんあるのにまだ欲しくなってしまう▼まずはバック、鞆の類。たいていファッションにこだわらないのだから「いいものをすこし」持っていればよいはずなのに、なぜか素材や形や色を変えて、いろいろ欲しくなってしまう。

これは「十年好きでいられそうなもの」しか買わないと決めました▼次に、器。これは料理の数だけ器があってもいいくらい、あれはあるほど楽しい世界...職業柄かこればかりはいくらあっても困りません。でも収納にも限りがありますから、これからは「一生も

ん」を選んでいきたい▼最後に、本。好奇心旺盛、知識に貪欲と言えは聞こえがいいけど、単に読書癖か活字中毒か。小説からポルターシュ、実用書に至るまで、興味を持ったらすぐに手に入れたくなる本の数々。

読むのが追いつかず「積ん読」になるものも多々あれど、出会いは一瞬、興味の赴くまま、直感と衝動に突き動かされるままに手に取る本の数々は、ワタクシの一番の道楽...これだけは衝動買いもお許しあれ? (麻)

リトスタの生ビールは「泡までおいしい」。その秘密は、注ぎ口がふたぐちに別れたビールサーバー! 美味しいフロスティ・ミストができる注ぎ口が専用にあるのです。泡の消えないうちにおいしく飲みきるのが、真のビール覚。リトスタこだわりのビア・カクテルもこの夏新作が登場します! まずは「ミックスサワー・ビール」。当店自慢のミックスフルーツ酢をビールで割ると...あら不思議。飲みやすいビア・カクテルに! 甘みがビールを飲みやすく、酸味が後味を爽やかに演出します。もう一つは「ブラック・シャandy・ガフ」。黒ビールのジンジャーエール割り! 甘いようで苦みもきいた、大人のビア・カクテルです。苦みは食事と合わせて、味に深みを出す大切な要素。ぜひ、この夏はビールの美味しさを再発見してください!

# リトスタの生ビール





反省しています。

日曜の朝、私はまぶたを赤く腫らして出勤した。店のみんなにどうしたのか聞かれるのは、言うまでもない。実は前の日の夜、食事した韓国料理店の店主とケンカして、帰りに泣いたのだ。

初めて行くその店は、友達のお勧め。店に入ると、アットホームな雰囲気です。店主らしい女性も陽気に話しかけてくれます。

サムギョプサルやチャプチェなどを頼み、友達と楽しい時間を過ごしていた。そこに、店主がやってきて「美味しいスープがあるから、だまされたと思って頼んでみてよ。」と言う。私たちは、思い切って頼んでみた。牛ホム肉が入った、牛骨をじっくり煮込み、ダシを引き出したという、そのスープ。スープを一口飲んでみた。塩気は丁度良いのだけど、想像していたより「ダシ」が薄く感じる。そこに店主が来て「正直な感想を言って。」と言うので、私は何も考えず「ダシがちっと薄い気が……コシヨウとごま油もきき過ぎていると思います。」と言ってしまった。その一言で、店主を怒らせ、その場の和やかな雰囲気も台無しにしてしまった。「私はここで三十年やってる。ファーストフードばかり食べてる若者にはいないのだ。私の何が分かるんだ、と怒りがこみ上った。その時は、私が料理をしてきた四年あまりを否定されたようで、ただただ悔しかった。けど次の日の朝、店のみんなにその話をしていて、気付いた。私も店主に対して同じことをしてしまったんだ。料理に向き合ってきた、美味しいものを作ってきたというプライドを傷つけてしまった。私の言い方も良くなかった。相手に意見を言うのは大事なことで、思いやりがなければ、伝わらない。これからは、ただ否定だけを投げるのはやめよう。そして、他人の意見に耳を傾け、謙虚さを持つる人になりたいと思った。」

節の中で春が一番嫌いだ。春は無条件に心が落ち込むからだ。

季 節の中で春が一番嫌いだ。春は無条件に心が落ち込むからだ。その次に嫌いなのが夏だ。嫌なことが起くるのはたいい夏だからだ。

「我が家の第2の食卓」と呼べる飲食店があった。家の近所で、仕事の遅番終わりでも営業しているその店に、震

災後からとはいえ私は何度  
たのだろう。私にとってそ

こはもはやただの食事  
所ではなく、大切な友  
達に会える場所であ

り、自分自身の可能性をもどこまでも広げてくれる、

奇跡の様な店だった。「だった」と

書いたのはつい先日、この店が諸事情により閉店して

しまったからだ。

飲食を志した時、私は広告業界でグラ

フィックデザイナーとい

う仕事をしていた。結婚をし、夫婦二人でこれからの生き

方についてよく話し合った。この先今の仕事を続けていって独立したいの

か？ そうじゃないよね、じゃあ何かしたい？ どんな生き方をしたい？ そ

の答えが2人共に勤めていた制作会社を辞め、飲食の道に入るといって

とだった。飲食で独立するために  
そんな想いで入ったこの業界。で

店はいつか無くなる。リトスタだって永久にあるわけではない。わたしが近

い将来開くことを夢見ている自分の店だってそうだ。それでもやる、そう思えるのはそこに何かが残るからだ。

私にとって奇跡であったあの店  
も、今の私にどれだけの物を

残っていてくれたか。  
世の中のすべての事は、  
おそろしく不安定な中

に成り立っていて  
いつ何がどう崩れて  
もおかしくない。で

も、だとしたら成  
り立っている方が

奇跡みたいなもので、だからこそ私はそれを大切にしたい

いづかにはなくなっちゃ  
うのだから。物だって、

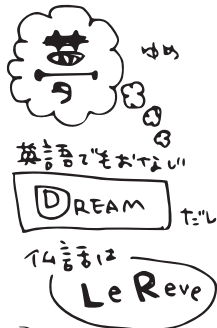
人だつて。

夏の最初に「夏の匂い、色々  
思い出す。これだから夏は嫌なん

だ。」という私のツイッター上のつぶやきに、友人が返信をしてきた。「で

「も、それだから夏はおもしろいんだ。」  
うん、そうだね。こんな思いをまたひ

とつ重ねて、一歩づつその先に進んでいくのだ。



どうも同じ位  
傳いものてことか

人だつて。



「存在」って面白い。人が何かを認識した時、その何かは初めてその人の中で存在を始める。

鳥マニアの友人からバードリスニングの手ほどきを受けてからの一時「耳が作り直されている」と感じた瞬間があった。それまでの私はヒヨドリが鳴こうが四十雀が鳴こうが「どっかに鳥がいる」としか思わなかった。

## ママの偏愛マツ



13

編み目

かりと晴れた青い空、ちりちりと肌を焼くような日差し、アスファルトの焦げた匂い…その兆しはちらちらと見え隠れはしていたものの、まだかまだかと焦れていた先日ついにセミが大合唱を始めた、夏の到来。財布と文庫本、タオルに包んだ水筒をカバンに詰め込む。遅ればせながら夏支度をしていた所に、手編みの綺麗な手提げカバンが届いた。縁あって知人のお母様に、好きな色の麻糸をお渡しして編んでもらったもの。それは群青ベースの麻糸で編まれており、持ち手と底部分が黒、そして、黒い底部分から本体の群青との間には、亜麻色の糸が、差し色で一本細く編み込まれている。さ

らによくよく見ると、編まれた麻糸の群青はうすすらと深みを帯びたり、薄まったりしている…しっかり目の詰まった、美しいカバンだ。不思議である。一本の糸があつちへ潜ってこつちへ回って…規則正しく編み込まれた様子はまるで糸同士が手を取り合っ、一編み一編み、意志をもった麻糸がカバンを形成しているようだ。

一つ一つの編み目は至って素朴な一編みである。特別な事は何もない、にもかかわらず、黒い糸、青い糸、亜麻色の糸…それぞれが同じビジョンを持って手を取りあうことで、大きな手持ちカバンとして此処にすくろと存在しているよう、に見える。明るい時間に散歩かサイクリングをして、コーヒーを飲みながら本を、小説を読むのだと張り切る。この夏は暑いだろうか…暑いだろうなあ…そして暑さに茹だりながらも、夕方に食べるアイスクリームや、タロ、その後の少しだけ涼やかな空気、夜中の蛙の声なんかに、目を閉じて、ああ夏だなあ、と時の流れの中にいることをしみじみ実感するのだ。と、持ち手を握りしめる。そんなことを思いながら床に寝転ぶ。ひやりとした床を伝ってまだ新しい麻糸の匂いがする。編み目には、作り手の確かな意志と遊び心と宇宙観のようなモノ、が宿っているんじゃないだろうか。

## 新本コミック

木目田 綾・選



世界大博物図鑑 鳥類  
荒俣宏 平凡社

た…いや、そもそも鳥が鳴いている事にすら気がついていなかった。けれどひとたび彼らの声に耳を傾けると、これが意外と難しくて耳は混乱をきたした。なんと雀の声すら、判別できなくなってしまうのだ。生活においての耳の使い方とほんの少し違った、別の新しい聴き方、新しい認識の仕方を獲得する必要が私には

多分あったせいだと思う。荒俣宏が著したこの図鑑は、こうした「存在」について心揺さぶられる名著、なにして鳥の両方の記述がなされた、言ってみれば「人類が認識した鳥の図鑑」なのだ。こんな本を存在させた、荒俣センセイの存在って…本当に面白い。

「度ひとりの暮らしを考えた頃、私が唯一、新作を楽しみにしている脚本家が手がけたテレビドラマが始まった。タイトルは「Q10」未来からある目的で2010年のある高校に送り込まれたロボット・Q10によって、なんと生きていた学生たちが、自分の生き方を考えていく話だ。明日がくるのが当たり前で、恋に迷路に、家族の事に悩む毎日だったあの頃を経験した、周りの大人たちがそと、ヒントを与えてくれる。たくさん大切なことが詰まっています。たくさんさんの経験をしたからこそ、生まれたことばばかりだ。

「どうせなにをしても無駄なんだ」と家族との関係を諦めている生徒に、校長先生が言ったことばが、私はいまも忘れられない。

「どうせなんて、言っちゃ駄目だよ。やれることをやろう。綺麗に部屋を片付けて、笑顔でおかえり。って言って、温かい食べ物出したあげる。そんなことだけで、それだけで人の心は繋ぎ止

vol.26



『Q10』

出演：佐藤 健、前田敦子 (AKB48)、小野武彦、薬師丸ひろ子、蓮佛美沙子

められるんだよ。」のことばとともに、彼のお母さんの味であるツナカレーが目の前に出される。帰る場所がある幸せ！私もずっと、両親にやってもらっていたこと。当たり前すぎて忘れていたけど、家を出る前に思い出すことができて本当によかった。

また、別の先生は言う。「本当に怖いのは、不幸そのものではなく、考えるのをやめしてしまうことです。一番の敵は自分の中にあるのです。」そして、「家族や恋人を愛したように、世界を愛せよ。愛する人を成り立たせているものを全てを愛せよ。今は見えなくても、未来を信じて。」そうすれば、いつか目の前に形となって現れる。





# ■8月はお盆休み、いただきます。

今月はお盆休みということで、三鷹の夏の風物詩、阿波踊り明けに少し長めのお休みをいただきます。みなさんにはご迷惑をおかけしますが何卒よろしくお願いします。

# お盆休み

8月20日(月)～23日(木)

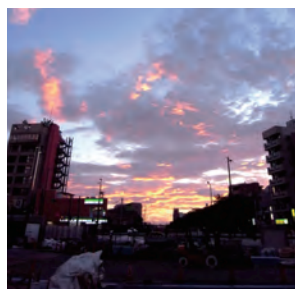
# ■夏のランチは定番が熱い！



夏休みの特別企画！期間限定スペシャルメニュー、今年もはじまっておりますよ！

# Clip

こんな仕事を8年してきましたが、なかなか世の中の催し物に足を運んだりできないものなんだよなあ、つくづくそう思います(苦笑)。そんな先日の月イチ連休、こんな機会もなかなかないよと、思い立って脱原発の大きなパレードに参加してきました。ま、でも自分自身にか声高に叫ぶでもなく、パレードの人混みの中、単にひとりの意志ある個人として都心の大通りをうきうき歩く(笑)。街へ出る、適切な大ききさの声で話す、誰かとほんのリココロを合わせる。暑い暑い夏の日差しの中、それはそれで本当に清々しく、時々街にだって出かけなくちゃなとつくづく実感(お)



# 編集後記

先月号は、なんと編集後記を書き忘れるという失態をしてしまったワタクシ。それを夏のせいにするわけにもいかず、歳のせいにするわけにもいかず、ねえ？(苦笑)(お)

えいやっ！このつけた「フレッシュマトのハンバーガー」。夏らしくさわやかな酸味がうれしい、栄養も満点のハンバーガーです。夏バテ防止にもぜひ！



年明けにもお出しした「チキンカツカレー」。インド直輸入スパイスがベースの当店名物チキンカレーに、揚げたてあつあつのチキンカツ！たっぷりのルーでがつつりスタミナをつけていきましょう！

# ★ Little Star Restaurant

リトルスターレストラン / Mitaka, Tokyo

東京都三鷹市下連雀 3-33-6 三京ユニオンビル 3F

tel 0422-45-3331 (ご予約はお気軽にどうぞ)

holiday 毎週月曜日+不定休



**ランチタイム** 11:30 ~ 14:30  
(土日祝は 12:00 ~ 15:00)

定番のチキンカレー定食とハンバーグ定食、さらに日替わり定食はホームページの毎日の更新でチェック！



**テイクアウト** 14:30 ~ 18:30  
(土日祝は 15:00 ~ 18:00)

スイーツに軽食、ドリンク各種。のんびりまったり読書にお仕事、おしゃべりもイネ。FreeSpotのサービスはこの時間帯でどうぞ。



**ディナータイム** 18:00 ~ 24:00  
(日祝は ~ 23:00)

お食事にお酒、お一人からカップル・ご夫婦・お友達に同僚... おいしいごはんをたべながら楽しい時間を過ごして下さい。なおこのお時間の喫茶のみのご利用はご遠慮いただいております。ご了承下さい。

PCでも携帯でも▶▶▶▶ <http://www.little-star.ws/>



「毎月新聞 じはん」置いていたございます。

三鷹駅南口中央通りの「古書上々堂」さん「まぼろば珈琲」さん、さくら通りの「三鷹の森書店」さん、吉祥寺通りジブリ美術館向かい「風のすみか」さん、連雀通り・南浦交差点近くの「こいけ菓子店」さん、人見街道沿い「あきゆらいず美食品 森の食堂」さん、吉祥寺は「バウスシアター」さん  
にこの小さな新聞を置いていただいております。

